

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年3月

（1）沖永良部で、大島地区肉用牛生産振興大会を開催

2月28、29日、沖永良部島で大島地区肉用牛生産振興研修会が開催され、奄美群島内の農家ら約90人が参加しました。研修会では、経済連の上村利久氏の「肥育農家に求められる子牛育成」に関する講演をはじめ、制度資金利用やハカマロール普及に向けた取組の報告がありました。また、2日目の現地研修では、2戸の肉用牛農家を視察し、サトウキビ農家との耕畜連携の取組や、自給粗飼料の硝酸態窒素中毒防止について、給与中の飼料や生育中のエン麦を確認しながら熱心に研修しました。

（2）グラジオラス新規栽培者が生産に奮闘し花き品評会でも評価

知名町花き技連会は、露地栽培が可能で単価が安定しているグラジオラスを推進しています。令和5年度は、10戸の新規栽培者が生産（約16万球、約1.6ha）し、JA部会と連携した現地指導やSNSを活用した栽培支援等を行ってきました。2月28日、知名町立中央公民館で、知名町切り花品評会が開催され、新規栽培者が最優秀賞を受賞しました。また、新規栽培者の生産状況も順調で次年度の生産意欲も高いです。今後も新規栽培者を育成し、産地化を支援していきます。

（3）テッポウユリ「咲八姫」目揃え会で生育状況と出荷規格を確認

3月5日、沖永良部島でテッポウユリ八重咲き品種「咲八姫」目揃え会を開催し、生産者及び関係機関15人が参加しました。目揃え会では、生産者と関係機関で現地を巡回し栽培状況を確認するとともに、出荷規格を定めました。令和6年産「咲八姫」は、生産者7人が栽培し、定植球数は34,600球です。暖冬の影響で計画より生育が進み、出荷は3月上旬から4月中旬までの見込みです。今後も、「咲八姫」の生産安定を図り、農家の支援を行っていきます。

